

文化財 NEWS

こちらのQRコードから、閲覧・ダウンロードができます→



文化財パトロール ～ 南会津町 ～ ④

9月12日(木)南会津町館岩地域・伊南地域において、森戸地区虚空蔵堂の銅製鰐口(館岩地区)と成宝山善導寺の木造阿弥陀如来坐像(伊南地区)の文化財パトロールを行いました。

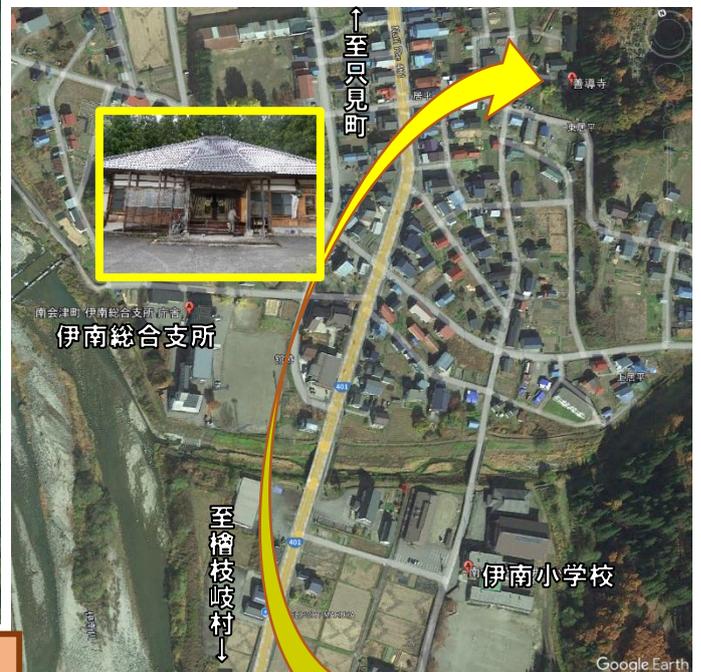
どうせいわにくち

銅製鰐口(森戸虚空蔵堂)

森戸地区の虚空蔵堂に掲げられていた銅製の鰐口です。鰐口とは、神社や仏堂の正面軒先につり下げられた、参詣者が縄でたたいて鳴らすものです。

鰐口に刻まれている銘文から、応永11年(1404年)には、圓福寺という寺院が虚空蔵堂の近くにあったと確認されています。現在は、虚空蔵堂のみが残り、鰐口も別の場所で大切に保管されています。森戸地区長の星さんは、「地域のアイデンティティとして大切に保管しています。」と話されていました。

文化財NEWS18号では、南会津町塩江地区の銅製鰐口を紹介しましたが、下郷町や只見町にも県指定の文化財になっている鰐口があります。また、町指定の文化財となっている鰐口もあります。多くの地域に社寺があり、信仰が行われていたことが感じられました。



もくそうあみだによらいざそう

木造阿弥陀如来坐像(成宝山善導寺)

木造阿弥陀如来坐像は、正徳元年(1711年)に京都からもたらされ、善導寺に安置されました。鎌倉時代に造られたとみられ、漆箔玉眼(金箔をうるしで貼り、眼に水晶をはめ込んだ)の像です。

しかし、金色の像は黒く塗られ、黒仏様とも呼ばれていました。南会津町教育委員会発行の『南会津町の文化財』には、「一説には余りに有難い御仏のためお迎え途中危機にあうことを恐れ金色の玉躰(ぎょくたい)を墨で塗りつぶしたと伝えられる。また一説には当仏は唐より渡来の御仏で海を渡るとき、龍神の眼をくらすため墨を塗ったとも伝えられる。」と書かれています。いろいろと想像できて面白いですね。

